

## 平木・鈴木両先生への惜別の言葉

平成18年3月

社会体育研究所所長 長 島 博

昨年の服部先生の定年退職に続き、本年も永年本学に奉職された先生がおふた方、定年になり、退職されることになりました。文学部の平木隆先生と経営学部の鈴木啓三先生です。この両先生は本学の勤続も長く、また我々の保健体育の分野ではなくてはならない存在で多くの仕事で中心的に活躍され、我々としては残念でなりません。しかしながら両先生にとっては新たな旅立ちであり、今後の活躍が期待されます。

平木先生は昭和33年に順天堂大学体育学部を卒業し、2年間のブランクの後、昭和35年に入職され勤続46年になります。昭和35年ごろの専修大学について平木先生におききすると、学生が定員数に達せず高等学校にいて大学進学を進めていたような時期だということです。平木先生もその経験があるとのこと。また生田校舎もまったく整備されておらず、古い1・2号館と木造の建物のみであったということです。グラウンドだけはラグビー場、陸上競技場、野球場、バレーボールコート、バスケットボールコートというように十分有ったようです。平木先生はそこで体育講師として授業を行い、グラウンドを整備し、用具を点検整備して体育実技を教えていたとのこと。

平木先生のご専門は健康科学論ですが、お若いころは東京教育大の大石三四郎先生の指導のもとに体育館理学を専門に研究し、学会での発表、もしくは研究論文などを書いておられました。学内では学生部委員や体育部委員を永年やられ、学生の指導にあたられました。また、保健体育の教員としては始めて長期海外留学でカナダのカルガリーに留学し、研究なされました。

鈴木先生は本学の出身で、学生時代はレスリングの選手として活躍されて、昭和33年の卒業後自衛隊に入られ、39年に本学に戻られ、40年度から保健体育の教員として入職なされました。その後鈴木先生は大学でのレスリングの経験を活かして、本学のレスリングの指導をされ、今にいたっています。大学での指導だけではなくレスリング協会の理事長などの要職にもつき、オリンピックのコーチなども経験され、日本のレスリングの発展に多大な力を発揮してきました。又、学内では社会体育研究所所長や体育部長

などの多くの要職について学生の教育のために貢献をされてきました。

両先生共に本学に40年以上在籍し、今回無事に定年退職を迎えることは非常におめでたいことですが、残る保健体育の関係者にとってはなんとなく支柱を失ったような気がします。退職された後も本学の保健体育について何かとご指導をお願いします。

平木先生・鈴木先生本当にご苦勞様でした。退職後も保健体育の行事などに参加して頂きたいと思いますのでよろしくをお願いします。